

陽の光に春の訪れを感じます本日、関係各位のご臨席のもと、令和7年度佛教大学通信教育課程 第26回 前期大学院学位記、第70回 前期卒業証書授与式を挙げていきますことを大変うれしく思います。

卒業生、修了生の皆さん、誠におめでとうございます。

本日ここに、佛教大学通信教育課程における学びを修め、この晴れの日を迎えられた皆さん一人ひとりに、心からお祝いを申し上げます。

また、これまで皆さんの学びを支え、励まし、見守り続けてこられたご家族、ご関係の皆さまに、佛教大学を代表して、深く感謝申し上げます。

通信教育課程で学ぶということは、決して容易なことではありません。

仕事を終えた後の夜、家事や育児を終えた後のわずかな時間、あるいは休日の静かなひとときに、皆さんは机に向かい続けてこられました。

疲れた身体を奮い立たせ、思うように理解が進まない箇所にも何度も立ち返り、ときに孤独と向き合いながら、学びを止めなかった。

その積み重ねは、単なる努力という言葉では言い尽くせない、尊い歩みであったと思います。

皆さんが今日この日を迎えられたことに、心から敬意を表します。

佛教大学の学びは、知識を蓄えることだけを目的としていません。

私たちが大切にしてきたのは、他者の声に耳を澄まし、自らを省み、社会と誠実に向き合う姿勢です。

答えを急がず、容易に結論を出さず、問いとともに生きること。

その姿勢こそが、仏教精神に根ざした本学の学びの核心です。

通信教育課程の学びは、とりわけ「自分自身との対話」として深まります。

教室で誰かと同じ時間を共有するのではなく、自らの意志で学びを選び、自らの力で考え抜き、自らの歩みとして学びを積み上げていく。

この経験は、皆さんの人生を支える揺るぎない力となっているはずです。

卒業にあたり、皆さんに一つの言葉を贈りたいと思います。

仏教には、「和顔愛語（わけんあいご）」という言葉があります。

和やかな表情で人に向き合い、思いやりのある言葉をもって語りかけることを意味します。

これは単なる礼儀ではありません。

人は誰もが不安や迷いを抱え、思い通りにならない現実の中で生きています。だからこそ、互いを傷つけず、互いを支え合うために、表情と言葉を整えることが求められるのです。

たとえば、職場で意見が対立したとき。

感情的に言い返すのではなく、まず相手の言葉に耳を傾け、「なぜそう考えたのか」を丁寧に受け止める。

その姿勢が、対立を対話へと変え、信頼を生み出します。

あるいは、誰かが失敗したとき。

責める言葉ではなく、「大丈夫ですか」「一緒に考えましょう」と声をかける。

その一言が、人を立ち上がらせ、場を温め、社会を少しずつ優しくしていきます。

和顔愛語とは、相手を変えるための言葉ではありません。

まず自分自身を整え、他者とともに生きる道を開くための、生き方の指針です。

これから皆さんが歩まれる社会は、正解の用意された世界ではありません。

変化が速く、複雑で、ときに理不尽さや困難に直面することもあるでしょう。

しかし皆さんはすでに、「学び続ける力」を身につけました。

忙しさの中でも、迷いの中でも、学びを止めなかった経験は、皆さんの人生の誇りであり、これからの道を照らす灯火となります。

修了・卒業は終わりではありません。

学びは、人生を通して続いていくものです。

佛教大学は、これからも皆さんの学びの原点であり、いつでも立ち返ることのできる場所であり続けます。

どうか、自らの歩みを信じてください。

そして、学びによって培われた知恵を、自分のためだけでなく、周囲の人々のために、社会のために、静かに生かして行ってください。

卒業生の皆さんの前途に、限りない可能性と幸多からんことを祈念し、告辞といたします。

本日は、誠にありがとうございます。

令和8年3月25日

佛教大学長 佐藤 和順